

(株) 関東地区昔がえりの会ほか (埼玉県上里町ほか)

実証面積：45ha

実証課題名

加工・業務用野菜サプライチェーン最適モデル構築を目的とした、キャベツ・玉ねぎの機械化栽培技術体系と産地リレーと連動したスマート農機の県間広域シェアリングによる低コスト技術体系の実証

構成員

東京電機大学、(株)日本能率協会コンサルティング、(株)関東甲信クボタ、クボタアグリサービス(株)、(株)クボタ、(株)セネコム、JA三井リース(株)、埼玉県(農林部生産振興課、本庄農林振興センター)、(株)リンガーハット、(株)関東地区昔がえりの会、(株)埼玉玉ねぎ生産供給センター、(有)こだわり農場鈴木、長野昔がえりの会、松川村営農支援センター



背景・課題

- 輸入野菜とのコスト競争力の強化のため、サプライチェーン全体の効率化、適期適量生産体制の構築が必要
- 農業労働人口の減少を打破し、国内供給体制を維持・増加するには、機械化・自動化による生産性向上・省力化、経験が浅い農業従事者も作業できる技術化・標準化が重要
- 収穫機などの農業機械は機能性が高く省力化効果が見込めるが、稼働期間が短くコスト高で、普及展開の弊害



本実証プロジェクトにかける想い

加工・業務用野菜のサプライチェーン最適モデル構築のため、露地野菜栽培(キャベツ・玉ねぎ)の生産から出荷に至るスマート機械化一貫体系技術の構築による省力化・生産性向上を実現するとともに、需要側と情報連携したサプライチェーン効率化、農業機械シェアリングによる12カ月稼働の実証を目指します!

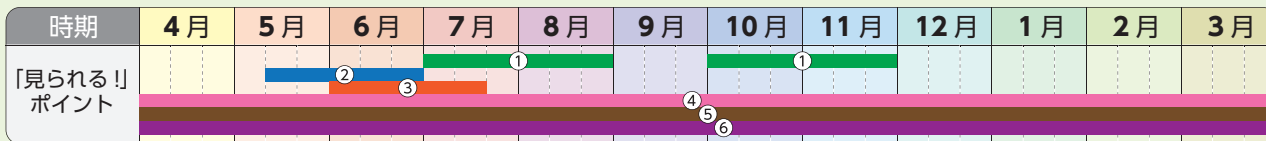
目標

- 自動化機械・鉄コン・IoTの活用で、作業時間50%削減・生産コスト20%削減(地域実績比較)
- 玉ねぎ保管施設を活用した廃棄ロス最小化と高品質化で、販売額10%増加(地域実績比較)
- 収穫機の広域産地間リレーによるシェアリングで、収穫機コスト30%削減(保有した場合との比較)

実証する技術体系の概要

要素技術

- ①自動運転トラクタ、②玉ねぎ収穫機、③玉ねぎ選果機、④乾燥・冷蔵貯蔵施設、⑤営農管理システム(KSAS)、⑥キャベツ収穫機(産地間シェアリング/埼玉・愛知・長野)など



①自動運転トラクタ
(株)クボタ



③玉ねぎ選果機



⑥キャベツ収穫機
(株)クボタ



問い合わせ先

- ▶実証代表
- ▶視察等の受入について

東京電機大学 未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 釜道紀浩
(株)関東地区昔がえりの会
Email: info@mukashigaeri.jp TEL: 0495-35-2061